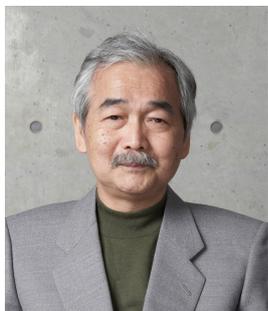


# 第8回 PEACE&GREEN BOAT 2015

## 水先案内人



石川好 / ISHIKAWA Yoshimi

【作家、評論家】

1947年生まれ。日米関係論、政治社会批判が主たる関心領域だが、近年、中国・インドなどに関心を示す。また、アニメーションの原作も手がけている。作家生活を続けながら2001年4月以来、秋田公立美術工芸短期大学学長として、大学改革に取り組み、2007年3月に退任。2009年3月より山形県酒田市美術館長。著書に「ストロベリーロード」(七つ森書館)、他多数。



権容爽 クォン・ヨンソク / KWON Yong-Seok

【一橋大学准教授】

1970年ソウル生まれ。幼少期より日韓を行き来し、1994年一橋大学法学部卒業。同大学で博士号を取得し、法学研究科准教授を経て、2009年より一橋大学国際・公共政策研究部准教授を務める。専門は東アジア国際関係史。著書に『「韓流」と「日流」—文化から読み解く日韓新時代』(NHK出版)等。



古市雅子 / FURUICHI Masako

【北京大学外国語学院准教授】

1977年東京生まれ。日本の高校を卒業後北京へ渡り、2000年北京大學中文系漢語言文學専攻卒業。同大学で博士号を取得し、2012年より外国語学院日本語文化系准教授を務めており、北京大学アニメ研究サークル「元火動漫社」の指導教官でもある。専門は、文化政策、日中映画関係史、日本ポップカルチャーの中国での受容等。



若宮啓文 / WAKAMIYA Yoshibumi

【公益財団法人「日本国際交流センター」シニアフェロー、朝日新聞元主筆】

1948年生まれ。東京大学法学部卒。1970年に朝日新聞記者となり、政治部長、論説主幹、主筆を歴任。2013年1月に退社し、公益財団法人「日本国際交流センター」のシニアフェローとなる。慶應義塾大学客員教授、韓国の東西大学碩座教授、ソウル大学日本研究所客員研究員なども兼任。著書に「日韓の未来をつくる」(「韓国知識人との対話」シリーズ1、慶應義塾出版会)、「戦後70年 保守のアジア観」(朝日選書)、「新聞記者」(筑摩プリマー新書)、「闘う社説」(講談社)など。1981年に延世大で、退職後の2013年には西江大で韓国語を学んだ。日韓フォーラム幹事、東京・北京フォーラム実行委員。



金朋央 キム・プンアン／KIM Boongang

【NPO 法人コリア NGO センター・東京事務局長】

1974 年富山県生まれ。在日コリアン三世。在日コリアンの学生団体、青年団体を通じて、約 20 年間に在日コリアンの若い世代(3・4 世)の教育活動に携わる。現在、NPO 法人コリア NGO センター・東京事務局長。在日外国人の人権保障や多民族多文化共生社会の実現、戦後補償問題、日韓市民・社会団体間の交流促進などを目的とする活動を行なっている。



笹森恵子／SASAMORI Shigeko

【広島被爆者】

米国カリフォルニア州在住。13 才のとき広島で被爆。1955 年に顔や体にケロイドをおった「原爆乙女」25 人が渡米治療を受けたときの 1 人。治療後帰国した後、1958 年に再び渡米し、ノーマン・カズズ氏の養女となる。米国では病院で看護師として働きながら、原爆の証言活動を続け、退職後も命の大切さを伝える活動にとりくむ。2009 年 12 月、米ミネソタ州ウィノーナ州立大学で名誉博士号を授与される。米国の市民グループ「ヒバクシャ・ストーリーズ」と協力して、米国や世界各地、国連本部などで被爆証言に取り組んでいる。



宇井孝司／UI Takashi

【アニメーション映画監督】

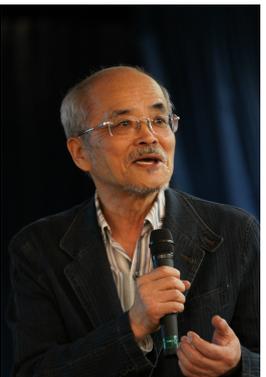
1985～86 年のテレビシリーズ『タッチ』の演出を皮切りに、1988 年に映画『森の伝説』を監督(手塚治虫氏と共同)するなど、多くの作品を手がける。1989～90 年には、テレビシリーズ『ジャングル大帝』の脚本と監督を担当し、文化庁芸術祭優秀子供番組賞を受賞。クルーズを通して、ピースボートとの共同プロジェクトとして、世界中の子どもたちが描く「夢」「住みたい世界」などをテーマに絵を集め、映像化する『平和交響曲～世界中の子どもたちと つくるアニメーション～』も実施する。



鎌田慧／KAMATA Satoshi

【ルポライター】

社会派ルポライターの代表的存在。原発、教育、労働などをテーマに、現場に入り込んでの取材を続けている。日本各地、そして世界を巡りながら、弱者の立場から強者を告発するルポルタージュを多数発表。福島原発事故を受け、国に「脱原発」への政策転換を求める署名運動「さようなら原発 1000 万人アクション」の呼びかけ人をつとめている。著書に『原発列島に行く』『自動車絶望工場』『教育工場の子どもたち』『橋の上の「殺意」』など多数。



前田哲男／MAEDA Tetsuo

【軍事ジャーナリスト】

長崎放送記者を経て、フリージャーナリストに転向。太平洋で行われた米・仏の核実験の実態や、日中双方の記録から中国四川省重慶に対し日本陸海軍航空隊が実施した無差別爆撃の実態を取材。自衛隊、在日米軍基地、沖縄など、日本国内のトピックにも数多く取り組み、「人間の安全保障」を軸に取材を展開している。著書に『Q&A で読む日本軍事入門』『何のための秘密保全法か—その本質とねらいを暴く』(岩波ブックレット)、『フクシマと沖縄—「国策の被害者」生み出す構造を問う』『9 条で政治を変える平和基本法』(高文研)など多数。



イム・オクサン／LIM OKSANG

【イム・オクサン美術研究所所長】

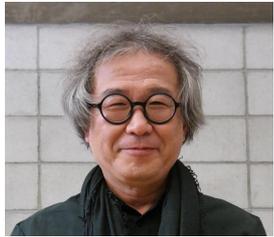
韓国の第一世代フォーク・アーティストの一人としてあげられうイム・オクサン氏は、公共美術を通してより多くの人々が芸術を楽しめるよう美術文化の裾野を広げる活動を展開してきた。現在、イム・オクサン美術研究所の所長を務めながら作品活動も活発に行なっている。洋上では”私たちの手で描くアジアの平和”をテーマに、日韓の参加者と一緒に掛け図を制作する予定。



ジョ・ユミ／CHO YOU MI

【レオ・バーネット&ウェルコム・パブリシス代表】

多国籍広告代理店'レオ・バーネット・코리아'の代表であり、ウェルコム・パブリシスの社長でもある。韓国内では女性として初めて広告代理店の単独代表となり、P&G, SK2, フィリップ・モリス等、国内外有数企業のブランド広告を担当した。”People First”という経営哲学を通じて広告業界の人材を育成している。



スン・ヒョサン／SEUNG HCHIOH SANG

【建築家】

韓国を代表する建築家。第4回光州ビエンナーレ総監督を努め、現在はソウル市の総括建築家であり建築事務所『イロジェ』の代表である。”貧者の美学”という自身の哲学に基づいて活動している。



ユン・スンジン／YUN SUN JIN

【ソウル大学校教授】

ソウル大学校環境大学院環境計画科の教授。脱核エネルギー教授グループの共同実行委員長を経てエネルギーの生態的な転換を図る市民団体「エネルギー転換」など、様々な環境市民団体で活動している。長い間既存のエネルギー体系に対する対案を探りながら、新しい暮らしにおける時代的な省察を促してきた学者でもある。著書には『持続可能な社会物語』『解りやすい脱核』等がある。



キム・ヨンス／KIM YOUNG SU

【作家】

21世紀韓国文学の”ブルーチップ”と称され同世代の作家の中でも特に活躍しているキム・ヨンス氏は長編小説『仮面を指して歩く』で作家世界文学賞新人賞を受賞した。著書に『旅行する権利』、『青春の文章』など多数の代表作がある。



アン・ビョンウク／AHN BYUNG OOK

【カトリック大学校名誉教授】

カトリック大学校国史学科名誉教授。30年以上韓国史を研究してきた歴史学者。また、「真実和解のための過去史整理委員会」委員長や「疑問死真相をと通した究明発展委員会」の民間側幹事として活動してきた”過去真相究明”の専門家でもある。著書に『韓国民主化運動の正確と論理』、『21世紀最初の10年間の韓国』等。



アン・ビョンオク／AHN BYUNG OK

【気候変化行動研究所所長】

80年代の初期「公害追放運動連合」や「環境運動連合」の事務総長を歴任し、30年近く韓国環境運動をリードしてきた環境運動家・環境専門家である。現在、気候変化行動研究所と市民環境研究所の所長を務めながら、ソウル市の「原発1基削減（原発1基分のエネルギーを節減する）」実行委員長、国会気候変動フォーラムの理事として幅広い分野で活躍している。著書に『ある地球主義者の視線』、『私達は地球を守る人です』等。



イ・ウォンジュ／LEE WON JOO

【アートディラー】

韓国の文化的土台をより強くするという趣旨の元設立した”ギャラリーエルヴィス”の代表であり、20年以上アジアのアートマーケットに韓国美術を紹介し、アート関連の企画の場を広めることに取り組んでいる。毎年”ASYAFF”を開催し、アジアの大学生や若手アーティストが活動の場を広げられるよう支援している。



イ・シジェ／LEE SEE JAE

【聖公会大学校教授】

ソウル大学校社会学科を卒業し、日本の東京大学で社会運動論で修士号を取得した。韓国環境社会学会会長、環境運動連合共同代表を歴任し、現在は聖公会大学校 NGO 大学院の教授を務めている。環境運動家兼社会学者であり、環境社会学や食社会学などを教えながら日本及び中国社会の発展を研究している。著書に『日本の都市社会』、『生態社会的発展の現場と理論』等。



イ・セジュン／LEE SAE JOONG

【環境財団理事長】

1970年代の「緊急措置第1号」から「民青学連事件」、「金芝河（キム・ジハ）裁判」など様々な事件を無料で弁論した”第一世代人権派弁護士”である。法曹の模範的な社会参加を実践した人物として評価されている。大韓弁護士協会協会長、社会福祉共同募金会会長を経て、現在は環境財団と大韓弁協人権財団の理事長を務めている。



イ・ハンチョル／LEE HAN CHOUL

【歌手】

韓国を代表するシンガーソングライター。人々を励まし、勇気づける歌詞で愛されている彼の代表曲「スーパースター」は2007年韓国大衆音楽賞にて”今年の歌”、”最優秀ポップシングル”の2つの部門で入賞した。希望を歌う”スーパースター”イ・ハンチョル氏は2013年、2014年に続き、今回の洋上でも参加者と共に楽しい思い出を作る予定である。



イ・ヒョジェ／LEE HYO JAE

【風呂敷アーティスト】

デザイナー、イ・ヒョジェの暮らし方は韓国的なライフスタイルの標本である。韓国の代表的な韓服（韓国固有の衣裳）デザイナーであり、現在は'ポジャギ（韓国の風呂敷）'を新しい視点から見直すことで、エコをテーマに'ポジャギアート'を展開し、ポチャギアーティストとして活躍中である。



ウン・ヒギョン／EUN HEE KYUNG

【作家】

1995年東亞日報新春文芸にて小説『二重奏』でデビューした。『他人への話しかけ』、『妻の箱』等を発表し、東西文学賞、李箱文学賞などを受賞して作品性を認められた。ウン・ヒギョンの作品はつまらない日常をユーモラスで生々しく描写することで、人生とは何かを表現している。韓国文化芸術振興委員会の文学委員会委員を務めている。



オム・ホンギル／UM HONG GIL

【オム・ホンギル ヒューマン財団常任理事】

オム・ホンギル氏は世界初ヒマラヤ 8,000M の高峰 16 座を登頂した世界的な山岳家である。自然愛、人間愛、挑戦精神等の価値観を広め、ネパールやパキスタン等の国々に人道的支援を実践するために「オム・ホンギル ヒューマン財団」を設立、現在常任理事を務めている。洋上では、ヒマラヤを登山しながら得た挑戦や克服の経験を語る予定。著書に『ただ希望を語る』、『不滅の挑戦』等。



キム・ハンジョン／KIM HAN JUNG

【延世大学校客員教授】

政治家、大学教授であり、金大中前大統領の秘書官、暎園大学校社会政策大学院教授、アメリカのコーネル大学東アジアセンター研究員などを歴任した。大韓民国第 18 大統領選挙当時は民主統合党の人事迎入委員会副委員長とムン・ジェイン候補の随行団長を務め、環境財団企画委員、延世代学校東アジア国際学部の客員教授でありながらメディアへの寄稿、出演、講演などの活動を続けている。著書に『私の尊敬する金大中：DJ と共にした青春物語』等。



キム・ホンシン／KIM HOGNSIN

【建國大学校教授、作家】

韓国初のミリオンセラー小説『人間市場』の著者でもあり、第 15～16 代国会議員を務めたキム・ホンシン氏は教授、市民運動家など様々な分野のオピニオンリーダーとして活発に活動を展開している。国会議員時代 8 年連続で議定評価 1 位受賞をはじめ、第 1 回 Proud Korean Award、第 12 回韓国小説文学賞などを受賞。著書に『大渤海』、エッセイ集『人生使用説明会』等。



キム・ミンジュ／KIM MIN JOO

【リード&リーダー代表】

キム・ミンジュは、トレンド及びマーケティング・コンサルティング事務所の(株)リード&リーダーの代表でありながら『300, 29, 1 - ハインリッヒ法則』の著者でもある。この本はハインリッヒ法則に基づき国内外で起きた多数の災害の原因を分析し、対処方法を提案している。大手企業、政府機関、NGOなどを対象に経営コンサルティングを行う一方、トレンド、マーケティング、経済、文化問題など幅広い分野で講演活動を続けている。



グァク・ドンホ／KWAK DONGHO

【マジシャン】

パントマイムとストーリーがあるマジックを展開するマジシャンとしてマジシャングループ『マジックプレイ』の代表や創作グループ『ソウォルギル(素月道)』の上のビニールハウス』の代表を経て、現在は『コトルマジック流浪団』の団長として活躍している。洋上でウィットあふれるマジックショーに期待！



グォン・チョルヒョン／KWON CHUL HYUN

【北中軍墓地平和フォーラム代表、前駐日大使】

15,16,17代国会議員でもあり、一番長く駐日大使を務めた。大使時代には日韓図書協定で朝鮮王室儀軌を含む1,205点の著書の返還を成功させ、国民勲章である”牡丹章”を授与された。洋上では未来のリーダーたちのために、”日韓関係やリーダーの役割”をテーマに自身の経験談を語る予定である。著書に『きもの太い大使の堂々たる外交』等。



ジョ・ミョンジン／CHO MYEONG CHIN

【欧州連合(EU)執行理事会安保諮問委員】

韓国人で初めて欧州連合(EU)の執行委員会対外国関係局で東アジア安保諮問を務めている。国防安保フォーラム(KODEF)理事、未来戦略研究院(KIFS)外交安保戦略センター委員、外交安保誌「defence21plus」諮問委員として関わりながら、”ジョ・ミョンジンのユーロデスク”というタイトルでコラムを連載するなど、国際安保専門家として国内外で旺盛に活動している。



シン・ヨン／SHIN YONG

【バブルアーティスト】

バブル・ドラゴンとして活躍するシン・ヨン氏は韓国初のシャボン玉アーティストである。SBSテレビ番組「スターキング(Star king)」にて優勝。その後、KBSの「スポンジ」、「5千万人の一級秘密」等に出演。子どもから大人まで楽しめるバブル・ドラゴンのマジック&バブルショーを是非お楽しみに。



ソン・ソツジェ／SUNG SUK JE

【作家】

”ストーリーテラー”と呼ばれているソン・ソツジェ氏は1986年に文學思想社が発行する文芸誌”文學思想”にて詩『ガラスを拭く人』を発表して登壇した後、本格的に作家としての道歩んでいる。また、韓国文化芸術委員会の文學委員会委員を務めた。洋上では、彼の新作でもあり樂山文學賞の受賞作である『透明人間』を通して韓国社会の中の個人の人生を覗いてみる予定。代表作には『ファン・マンガンはこう言った』、『たった一度の恋愛』等。



チェ・ヨル／CHOI YUL

【環境財団代表】

韓国の代表的な環境活動家。1982年韓国初民間環境団体である「韓国公害問題研究所」を立ち上げた。環境運動連合の事務総長を経て現在は環境財団の代表として環境を守るための活動を続けている。1995年には”ゴールドマン賞”を、2014年には”シコ・メンデス賞”を受賞した。著書に『生きているものはみんな美しい』、『チェ・ヨルおじさんの地球温暖化物語』等。

チャン・サイク／JANG SAIK

【パンソリ歌手】



韓国の歌手・国楽人。チャン・サイク氏は45歳という遅い年齢でのデビューして以来、「ノイバラ」、「花遊び」など国楽と歌謡をアレンジした歌で多くの人から愛されている。評論家の間では”一番韓国らしい歌を歌うソリクン(韓国伝統音楽のパンソリ歌手)”と評価されている。2007年には環境財団の”世を明るくする人々”に選ばれた。洋上で夜の海を眺めながらチャン・サイク氏の”韓のメロディー”に心身を委ねてみよう。



ノ・ドンヨン／NOH DONG-YOUNG

【ソウル大学校国民健康知識センター所長】

ソウル大学校医科大学国民健康知識センターの所長であるノ・ドンヨン院長は、乳がん研究や診療分野で国内最高権威者と評価されている。洋上では、韓国乳がん健康財団の理事長でもあるノ・ドンヨン氏が初めて韓国に導入した”ピンクリボン・キャンペーン”の裏話や乳がんに関して語る予定。



ファン・ジウ／HWANG JAE WOO

【詩人】

ソウル大学校美学学科を卒業し、1980年中央日報新春文芸にてデビューした。韓国芸術総合学校の5代総長を歴任し、現在は演劇院の教授として韓国文学芸術界の人材育成に取り組んでいる。代表作には第3回キム・スヨン文学賞の受賞作でもある『鳥たちも世を去る』、『私は君だ』等がある。



パク・ジェガ／PARK JAE GAHB

【ソウル大学校医科大学名誉教授】

ソウル大学校国立癌センターの初代院長であるパク・ジェガソウル大学校名誉教授は、国民の健康を守る”禁煙伝道師”としても有名。2002年”韓国の医学者20人”に選ばれ、2015年には”今年の見習いたい人物大賞”を受賞した。洋上では”平均寿命120歳時代”を迎えた今、健康で幸せに暮らす方法について語る。

古今亭菊千代／KOKONTEI Kikuchiyo

【落語家】



今年、噺家 31 年目を迎える菊千代師匠。1993 年に先輩である三遊亭歌る多さんと共に女性初の真打に昇進。古典落語から創作落語、手話落語、韓国語と日本語両方で繰り広げる二次元落語など積極的に新しい分野を開拓し、国境を越えて幅広く人を楽しませている。師匠ならではの温かみのある寄席は、落語が大好きという方から、寄席に行ったことがないという方まで楽しめること間違いなし。2013 年には、子どもから大人まで落語を楽しめる『体験!子ども寄席』(偕成社)全五巻を出版。

飯田哲也／IIDA Tetsunari

【認定 NPO 法人環境エネルギー政策研究所 (ISEP) 所長】



京都大学大学院工学研究科原子核工学専攻修了。原子力産業や原子力安全規制などに従事後、「原子カムラ」を脱出して北欧での研究活動や非営利活動を経て ISEP を設立し現職。自然エネルギー政策では国内外で第一人者として知られ、先進的かつ現実的な政策提言と積極的な活動や発言により、日本政府や東京都はじめ地方自治体のエネルギー政策に大きな影響力を与えている。国際的にも豊富なネットワークを持ち、21 世紀のための自然エネルギー政策ネットワーク REN21 理事、世界バイオエネルギー協会理事、世界風力エネルギー協会理事なども務める。3.11 後にいち早く「戦略的エネルギーシフト」を提言して公論をリードしてきた。福島第一原子力発電所事故発生以降は、経済産業省資源エネルギー庁総合資源エネルギー調査会基本問題委員会委員や、内閣官房原子力事故再発防止顧問会議委員を歴任した。2014 年より一般社団法人 全国ご当地エネルギー協会事務総長をつとめ、地域からのエネルギーシフトを進めるために全国を奔走中。主著に『エネルギー進化論』(ちくま新書)、など多数。

菅直人／KAN Naoto

【衆議院議員】



1946 年生まれ。1974 年、日本の婦人参政権運動を主導してきた市川房枝さんの参議院選挙で事務長を務める。1980 年、4 度目の挑戦で衆議院選挙に初当選。1996 年 1 月、橋本内閣で厚生大臣に就任。薬害エイズ問題を徹底究明し、被害者に大臣として謝罪。2009 年、民主党政権誕生で副総理に就任。2010 年 6 月、第 94 代内閣総理大臣に就任。同年 9 月、被爆者に核兵器使用の悲惨さを世界へ発信してもらう「非核特使」を創設。2011 年 3 月 11 日東日本大震災、福島第一原子力発電所事故が発生。総理大臣として地震ならびに原子力災害対策の陣頭指揮に当たる。同年 5 月、中部電力浜岡原子力発電所に対し(東海地震の)安全確保がなされるまで運転を停止するよう要請。同年 8 月、再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度 (FIT) 導入を決める。9 月 2 日、首相を辞任。現在、衆議院の「原子力問題調査特別委員会」メンバーを務めるなど、核兵器も原発もない社会の実現に向けて活動している。